



本校の授業改善に向けた視点					
指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫	小中一貫教育の充実の工夫
<p>言語活動の充実を図るため、体験的な活動を積極的に取り入れ、児童の考えや思いを素直に表現できるように学習方法や発表の仕方を工夫する。</p> <p>基礎・基本の定着を図るため、長期休業期間を利用して学習教室を開き、個別指導、繰り返し指導を積極的に取り入れていく。</p> <p>個に応じた指導を充実させる。(T.T、少人数指導)</p> <p>情報機器を活用する。</p>	<p>教科授業時数の集計を細かに行うことで、教科等の偏りを適宜調整し、時数の確保に努める。</p> <p>自然体験や公共施設見学、地域との交流など体験的な学習を重視するとともに学年の発達段階に応じた学習活動・内容や評価を改善し、年間計画に位置付ける。</p>	<p>研究推進委員会を中心として、研究主題である「進んでかわり合い高め合う子」の実現に向け、授業実践を通じた研究を積極的に行っていく。そのための指導体制の充実を図っていく。</p> <p>長期休業日等を活用した教職員の研修の場を積極的に設ける。</p>	<p>保護者アンケートや学校関係者評価結果を積極的に次年度の教育課程の編成に生かす。</p> <p>児童の自己評価、授業評価等も取り入れながら、指導方法の改善を図ると共に評価規準の見直しを進める。</p> <p>一単位時間ごとの評価計画を取り入れた学習指導計画を見直し、より丁寧な評価を実践する。</p>	<p>家庭との連携を深め、学校と家庭との指導の一貫性を図る。そのために、学校の基本方針を理解してもらい、同一の指導ができるように、保護者や学校評議員会等の学校関係者評価、保護者会、PTA運営委員会、学校通信、学校公開、道徳授業地区公開講座等を通して情報交換を行い、相互理解を深める。</p> <p>PTAの図書ボランティア活動および読み語りの活動を積極的に活用し、児童の読書意欲を喚起するとともに環境の整備を図る。</p>	<p>校区别協議会における協議内容を活用する。</p> <p>小中一貫教育実践校および研究グループの実践例を活用する。(中学校での部活体験、中学生による海外派遣報告会、出前授業)</p>